

日吉台地下壕保存の会

会 報

第15号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

Ⓔ223

横浜市港北区下田町3-15-27

☎ 045-562-1282 (寺田貞治方)



沖縄の旧海軍司令部壕の司令官室入口付近

目 次

頁

○新しい年を迎えて	1
○第9回幹事会報告と	2
○日吉台地下壕の保存 について(要望書案)	2
○地下壕見学会感想文	5
○お知らせ	8
○お願い	8
○編集後記	8

新しい年を迎えて

会長 永戸多喜雄

日吉台地下壕保存の会は、地道な調査活動と学習を重ねながら、一九九二年を迎えました。真珠湾から既に五〇年の歳月が流れ、太平洋戦争の事実を知る人々の数が減れば減るほど、この会が存在する意義はますます重みを加え、それに比例して会を組織する私たちの歴史的な責任も大きくなって来ました。

会の運動がたゆみなく続くあいだに、私たちの問題提起に答えて下さる方々が着実に増加する傾向が維持され、会の活動に関心を寄せる人々の層が厚くなって来たのは、心強い限りですが、今年はさらに関係各グループとの連携をすすめる、各方面への働きかけを強化して、将来への展望が広がるような運動が展開できればと願っています。

私たちの周囲は、腹立たしいこと、目をそむけたくなること、むかつくことなど、次から次へと起こっています。私たちの会では一人一人が今しなければならぬことを、静かに、しかも元氣よく実行して行きましょう。

第九回幹事会△△部報告口

日時 一月一日

場所 港北区箕輪 梅ヶ枝

報告事項

事務局長より

一、会員数四七三名

二、一月一四日：港北区小

・中学校教員団体が地下壕見学。二〇数名参加。

三、一月一八日：会報一四号発行。

四、一月一九日：某市会議員が、地下壕保存について知りたいと訪ねてきた。

五、一月二一日：地下壕出入口付近の民家を訪ね、挨拶がたがた地下壕について聞き取り調査をした。

六、一月三一日：自民党代議士の秘書に会い、地下壕保存について意見を聞き、保存の要望と協力をお願いした。

七、昨年暮れに、日吉台小学校の先生から地下壕見学の要望があった。

八、一月一〇日：川崎市の

ふれあい館より、「戦争と人権『四六六年間の忘れ物』」

というテーマで、人権尊重学級が開かれるので、参加を呼びかけてほしいとの連絡があり、チラシを送るこの事であった。

議事

一、地下壕見学会について

今までの反省点と、これからのやり方について

今後見学者が増えることが予想されるので、幹事の誰もが、見学の説明が出来るようマニュアルをつくる。

二、保存運動の進め方

①知事・市長と、それぞれの議会との関係について
②国会議員団の地下壕視察について③県知事と市長への陳情（または要望）について
陳情文（要望書）の検討
④保存の見通しについて

横浜市には、既に1昨年港北区区政推進課より「地下壕利用計画策定調査報告書」が提出されて

いるが、市当局には保存についての動きはない。

神奈川県では、地下壕保存の動きは知事に達しており、どここの部署で扱うかということも検討され、国際交流課が扱うことになった、ということ

三、調査活動について

慶應関係、朝鮮人関係、空襲による被災者、旧海軍関係など

四、イベント開催について

総会の時、多くの人が集まるようなものを何かやる。

五、パンフレットの発行

工芸社で印刷、三月に発行
六、会報第一五号の発行
一月中に発行。

九、第一〇回幹事会

二月一二日 五時半
第一一回幹事会
三月一日 五時半

日吉台地下壕の保存について（要望書案）

「一」保存の目的
神奈川県並びに横浜市は、

戦災によって多くの家が焼かれ、多くの人が亡くなりました。いま、県や市に戦争の爪跡をとどめるものは殆どありません。

しかし、日吉の丘の地下には、旧帝国海軍連合艦隊司令部の巨大な地下壕が眠っています。この地下壕の掘削に当たっては、多くの朝鮮人労働者も従事しておりました。連合艦隊司令部は海上の艦上におくのが日本海軍の伝統でしたが、第二次世界大戦の末期ついに陸上に移さざるを得なくなりました。日吉の地下壕の司令部から、フィリピンのレイテ作戦・沖縄作戦・特攻隊の出撃などの指令が出されました。司令部があったために、日吉はいち早く空襲を受け、日吉の町も周辺の地域も、焼夷弾や爆弾が落とされ、多くの家が焼かれ、多くの人がなくなりました。さらに、戦後も米軍が進駐し、数年間

は基地の町となり、いろいろな困難に直面しました。

神奈川県は、横須賀という軍港があったこと、また首都に隣接し立地条件に恵まれていたため、旧軍隊等の各種施設が多数設置されましたが、これらには例外なく大規模な地下壕が築造され、その数は一五六〇箇所（米軍及び自衛隊使用施設内のもは除く）にのびりました。中でも、日吉の地下壕は、当時最も重要なものであり、様々な戦争の実相が凝集しているところとす。このような戦争の爪跡をとどめるこの地下壕も、いま残さなければ、県や市に太平洋戦争当時の激動の昭和史を語る構造物は殆ど無くなってしまうでしょう。

私達は、こうした歴史的な貴重な遺産を、史跡として、また戦争と平和を考える原点として、現在及び後世の人々のために残したいと思えます。

（参考）

（一）現在、既に地下壕の

見学会を行っておりますが、

見学の申込が非常に多く、月に二・三回のペースで見学会を行っております。今のところ、日吉地区の小・中学校のPTA、小・中学校や高校の教員の研究団体、区や市の社会団体、近くは国会議員などの申込が多いのですが、毎回定員をオーバーし、かなりお断りしている状況にあります。地域住民の見学の希望も多く、地下壕に対する関心は非常に高いものがあります。また見学を終えた人達の保存・公開の声も、非常に大きいものがあります。

（二）一九八九年に取りまとめた「日吉地区会議からの要望」の一つとして出されたものに、地下壕の保存があります。それには「日吉地域の持つ、残された貴重な山林を緑地として、子々孫々に至るまで永久に保全、活用できるように所有者と具体的な話し合いに入って欲しい。」とあります。具体的には

①慶應大学校舎地内にある、

旧連合艦隊司令部地下壕の保存と併せて、周辺緑地の公園化。

②日吉、箕輪町地内に残る諏訪神社一帯の山林を保存、

緑地公園として活用したい。ということ、地元の地下壕保存の要望も高いものがあります。

（三）また、一九九〇年三月に港北区役所でまとめた

「日吉台地下壕利用計画策定調査報告書」が横浜市に提出されました。それによると、地下壕整備の構想として、次のような段階による整備が望まれるとしています。

①地下壕に関する記録の保存

②安全性に関する調査

③保存及び研究対象としての公開

④一般公開

とくに④について、次のように書かれています。

「より多くの人々に日吉台地下壕のことを知ってもらい、戦争や平和や、歴史など様々なことについて考える機会を提供するために、条件が整えば一般公開についても積極的に検討する。」

（四）既に保存・公開されている地下壕が、いくつかあります。

①沖縄の旧海軍司令部壕：

長さ約四五〇m。司令官はじめ幕僚以下約四〇〇人の将兵が、この壕及び周辺で最期をとげた。この壕は、戦争による人類の災禍を深く認識し、世界の平和を記念する場所として保存することを目的として沖縄観光開発事業団によって、復元・一般公開された。

②長野県松代大本営地下壕：

総延長一三km。大本営や天皇の御座所を移転する予定で掘られた。この地下壕の掘削に約七〇〇〇人の朝鮮人が強制労働させられ、多くの朝鮮人が亡くなったといわれる。高校生が調査し、保存運動を進め、現在その一部が長野市によって

保存・公開されている。

③広島県大野久島：

毒ガス工場のあったところで、今も動いていた人々や周辺の人々に後遺症がみられていた。中学生も加わって調査し、保存運動をした結果、竹原市によって保存・公開された。

④沖縄県南風原陸軍病院壕

この病院は第三二軍（沖縄守備軍）直属の壕で、正式名は沖縄陸軍病院。将校・軍医・衛生兵・看護婦など三百余名、ひめゆり学徒隊二百余名、患者は二千余名、延べにして一万名に達し、壕内はまさに阿鼻叫喚の世界であったという。壕入口の「南風原陸軍病院跡」碑には「重傷患者二千余名自決の地」と刻まれている。沖縄戦で、この町の住民の四〇％約三千人が戦死した。一九八九年、南風原町文化センターがオープンし、南風原病院壕が町文化財に指定され、歴史の生き証人として保存・公開された。

（五）また、現在保存運動が進められている地下壕が、いくつもあります。

①大阪府高槻地下倉庫：

高槻「タチソ戦跡」保存の会が、保存運動を進めている。

タチソとは高槻地下倉庫の略で、この地下壕は、主により約三五〇〇人の朝鮮人によって掘られたという。

②兵庫県西宮市、甲陽園の地下工場：

戦争の記録を残す西宮市民の会が、保存運動を進めている。工場のあった地下壕の壁に「朝鮮国独立」の文字が発見された。この地下壕の掘削に従事した朝鮮人は、少なくとも一〇〇〇人はいたという。

③八王子市の浅川地下壕：

八王子の地下壕問題を考える会が、保存運動を進めている。松代の地下壕に匹敵する程の大規模なもので、三〇〇〇人とも五〇〇〇人ともいわれる朝鮮人が地下壕の掘削に従事していたという。この地下壕は、飛行機のエンジンや機銃の部品を製造するために利用された。

いう。この地下壕は、飛行機のエンジンや機銃の部品を製造するために利用された。

「二」日土ロム口地下

壕の概要

日吉地区にある地下壕は、現在分かつていたただけで四箇所、延べにして長さ四km有余あります。このうち慶應大学日吉キャンパス内には、三箇所、長さ約二・六kmあります。この地下壕は図1の①のAに連合艦隊司令部、①のBに大本営軍令部第三部（情報部）と航空本部が、③には人事局が入っていました。②は第一校舎（現慶應高校校舎）に入っていた人事局と経理局などの職員の避難壕になっていました。壕内は何れも幅二・三m、高さは約三m、周りには厚さが四cmのコンクリートで出来ています。

この①のAで、連合艦隊司令部のあった壕です。

「三」保存の方法

現在、連合艦隊司令部壕にはいるために開かれている出入口は、図2のaで、民家の庭先にあります。見学するためには、民家の方の了解を得て入っており、民家の方にはご迷惑をおかけしています。また、年々壕に流入する泥も増え、このままでは地下壕の傷みも加速されるものと考えられます。いつまで、この状況で見学を続けられるか不安です。そこで、もっと自由に、安心していつまでも見学できるように、地下壕の整備とその保存が望まれます。そのために私達は次のような保存の方法を考えています。

第一段階

民家の出入口（図2のa）とは別に、道路に面した出入口を確保する。候補としては、図2のbの出入口が挙げられる。しかし、ここは米軍によって爆破され、陥没したまま

になつていて、ここから大量の泥が地下壕の中に流れ込んでいる。現在は、土嚢で塞がれ、泥の流入を防いでいる。陥没したところは道路に面しており、陥没した土を取り除き、ここをコンクリートで整備し、扉を付けて出入口とする。地下壕の中へは階段をつけて入るようにし、壕内の泥は取り除く。

第二段階

地下水がかなり出るので排水溝を整備する。当時つくられた排水溝があるが、泥が入って排水が円滑でないところがあるので、泥を取り除き補修をする。

第三段階

天井に当時と同じ様な電球を付けて照明を整備し、作戦室とか、通信室とか、当時地下壕を何に使用していたか分かるような説明プレートを設置する。また、出入口には地下壕についての案内板を設置する。また、主な部屋には当時の様子が分かるような模型

を設置し、説明板を付ける。

第四段階

出入口の近くに資料館をつくる。日吉台地下壕の周辺には、古墳、貝塚、古代住居跡、古道、寺社、公園などのアメニティ資源が点在しているのので、これらをネットワーク化して、資料館をその中心に位置づけ、地域住民の学習の場とする。資料館は、地下壕に関する資料のほか、古代から現代にかけての日吉地区及びその周辺の地理・歴史あるいは風俗・習慣などの資料を展示し、文化的な行事が出来るようなスペースをつくる。

現在、地下壕見学の前に、必ず地下壕についてのレクチャーをあちこちの会場で行っているが、資料館が出来る就非常に便利になる。

「四」地下壕のハム

開十方法

地下壕についての知識なしに地下壕を見学しても、ただトンネルを見るだけで何も分りません。したがって、見

学に先立って地下壕についてのレクチャーを聞き、案内してもらって初めて地下壕のもつ意味が分かります。それ故、土曜・日曜・祭日などに限って公開し、必ず地下壕についてのレクチャーを聞いて見学するようにします。ただし、団体の場合は、別個に相談して見学が出来るようにする事も考えます。不特定多数の人が大勢来てうるうろすると、地下壕の出入口周辺の人々に迷惑をかけるかも知れませんので、以上のような公開の仕方が適当ではないかと考えられます。

「五」問題点と

最も大きな問題点は、地権者との関係であるかと考えられます。まず地権者から地下壕使用の了解を得なければならぬこと。つぎに、公開したときの地下壕の管理はどうするのか、万一事故が起こったとき誰が責任を負うのか、などの問題があります。地下壕の管理・運営につい

ては、次のいくつかの方法が考えられます。

- ①県または市や区が直接管理・運営をする。
- ②日吉地区センターが管理・運営をする。
- ③資料館が出来たら、その館が管理・運営をする。
- ④第三セクター方式にして、例えば財団法人をつくり、そこが管理・運営をする。
- ⑤民間の団体、例えば保存の会に補助金を出して管理・運営を委せる。

以上

*以上の文は、市や県に地下壕保存の陳情または要望をするときに、提出したいと考えております。何か御意見がありましたら御連絡下さい。

地下壕目元学子△△
威感相心文

一月二八日(駒林小PTA
成人教育委員会)

*テレビや書物で日吉台地下壕のことを聞いていました。

非常に遠いところまで通じているという噂も流れていた。地下壕見学に際して、その歴史的背景をお伺いし、実際見学してみても、戦争の傷跡がほんとに身近に生々しく残されているということを実感しました。

戦後四〇数年を過ぎ、戦争の記憶が薄れ行く中、PKO法案が国会で審議されている現在、戦争のあった傷跡として、是非、地下壕を保存し、子供達に伝えていかなければと思います。学校でも是非、教材として活用してほしいと思います。非常にためになった企画でした。ありがとうございました。

(追伸)娘もこの見学に参加し、はじめは興味半分であったが、設備のとのつた地下壕が朝鮮の人の強制労働により作られたことを知り、戦争の傷跡をかいま見たような気がした、との感想でした。

*成人教育委員会の皆様、先日は駒林小父兄の一人とし

て地下壕の見学に参加でき、有難うございました。特に二度にわたりご同行頂いた寺田先生には深く御礼申し上げます。

四六年前の日吉の歴史に触れ、当時を生きた人々を想い、私達の幸福に感謝したいと思っています。また、暗闇の中での黙祷も感動の一時でありました。昨今、受験なども含めて自分達さえよければの風潮ですが、子供はおおらかに育てたいものです。

*この度の企画は、日頃成人委員会の活動を余り身近に感じていなかった私にとって、非常に興味あるものであり、委員の方達の御苦労が偲ばれます。

今回は男性の出席者が多かったようで、今後も参加可能な時間設定の企画があれば参加したいと思います。

*敗戦後、日吉に駐留軍がいたことは、聞いていましたが、何故いたかは知りませんでした。今回地下壕の見学会

に参加し、その理由を知ると共に、こんなに身近に戦争の跡があることを知り驚きでした。あんなに激しい悲惨な戦争があったのに、その跡が殆ど身近にみられなくなっている現在、この地下壕の存在は貴重なものと思います。

駒林小学校の父母や先生方が、どのくらい見られているのか知りませんが、是非この地下壕を見学され、当時この地下壕内で作戦決定されたことにより、多くの人間が死んでいったことを、子供らに是非伝えていってもらいたいと思います。今回、企画して頂き有難うございました。今後、この地域に住んでいることから学べる企画を期待しています。

*日吉の地区に縁あって勤務し、この地域の歴史に触れることは、私にとって嬉しいことでした。もともと歴史的なものに興味がありますので、これから日吉、港北区の歴史的な寺院、建物、道などい

ろいろ知りたく思っておりま

す。世にはやりの歴史散歩といったところかも知れませんが・・・

日吉台地下壕は、私が想像していた以上に立派であり、さすが日本海軍の情報基地だけあると驚かさされました。しかし、一方地下壕がどのようにして掘られたかを聞き、戦争の恐ろしさを新たにしました。平和のため、例えば地震のための非常用保存庫などに使われるものならば良かったなど、つくづく感じました。

最後になりましたが、計画して下さった成人委員さん御苦労様でした。もし、できま

すことなら土曜日であると尚良かったと思います。

*日吉に生まれ育ってからの年になるまで、地元この場所にこのような地下壕があることを知りませんでした。いたるところに網の目のような地下壕があることを知り、昔の戦争の傷跡が、この場所にあったことに驚きました。

また、朝鮮人労働者が掘削した話を聞いて、日本の軍国主義の時代をまざまざと思い知らされました。

戦争を知らない私でも見学したことによつて複雑な気持ちになりました。長く保存され、少しでも多くの方々に身近にこういう場所に触れて頂いて、戦争ということについて改めて知って頂きたいと思いました。

寺田先生の細かい説明のお陰だったことにも御礼申し上げます。成人委員の方々が難うございました。

*戦後生まれの私が地下壕に入つて歩いてみると、映画などでみた場面と当時あの迷路のような地下壕で日本軍の通信部隊の方々が実際に動く姿が思い浮かぶようでした。今日の私達の平和は多くの人々の犠牲の上にあることを実感致しました。地下壕を作るのに多くの朝鮮人の労働力によることも聞き、また考えさせられました。成人委員の計

画で参加でき、近くに戦争の貴重な物があることを知りました。子供達にも伝えていきたいと思いました。役員の皆様に感謝致します。有難うございました。

*住んでいて意外に知らない日吉の歴史を少しでも覗き見ることが出来て大変有意義でした。今回の催しを計画された方々に感謝します。

*三〇数年ぶりに地下壕に入り小学校時代を思い出ししました。小学校の頃入ったところは今回とは全く別の入口から入ったように思います。当時は海軍の司令部のあったところということは今全く知らずに入つたのですが、今回は事前に説明を受けていたので非常に良かったです。時間的に無理だったとは思いますが出来る限りもつと奥まで入ってみたかったなと思います。終戦まぎわにあれだけの地下壕が作れたというのは素晴らしいことだと思えます。幹事の方々本当に御苦労様でした。

*身近なところに、このように大きな地下壕があることを知る事ができ、またそれが終戦末期のわずか一年足らずの間に造られた物と知り、驚くばかりです。内部を丁寧に説明して頂き、当時の緊張が、当時の経験のない私達にもひしひしと伝わって来る思いました。

*長年住みなれた日吉の町に、かくも興味深い歴史が秘められているとは思ひもよらなかった。講師の寺田先生にはたまたま高校の時に地学を教わった先生でもあり、ことのほか親しみを感じたし、説明等も学生時代を思い出し、とても楽しい一日を過ごすことが出来たと思う。今回は天候や時間の関係で今一つ奥深い内容に触れられなかったことは残念であった。このような企画は面白く有益であると思うので、再度統編をやつて頂きたいと思う。

*戦後生まれの我々は戦争体験がないので、体験を子供

達に語り継ぐということが不可能です。そのような中で、実にいい機会を与えて頂いたので、当時そのような場所である地下壕に入つてみて、また新たな気持ちで戦争ということについて考えてみよう、そして子供にも話をしてあげねばと思い参加してみました。戦争の跡というものは、今は少なく年々風化され、今日では忘れ去られつつあるように思います。この貴重な地下壕を守り、語り継いでいってほしいものです。できれば保存の会のメンバーが多くなり、当時の施設の復元が望まれるところであります。

*地元、日吉の地下壕は、以前から機会があつたら入つてみたいと思つていましたので、この度参加できて良かったです。日曜ということで男性も多く、結構なことだと思えました。従来のバス見学も楽しいものですが、こういう見学も本當によいことだと思えます。この見学会のちよっ

と前に、丁度、強制労働のため拉致されて、一〇年間北海道を逃避行し、発見されて無事中国に帰国できた中国人の再来日を報じる記事を読んでいたもので、地下壕でも朝鮮人の強制労働をおもに工事がなされたことに、胸ふさがれる思いでした。

戦争体験はないけれど、新聞や本、またこうした遺物を見たりして、戦争のことを知っておくことは大切なことだと思つています。原爆記念館のように、地下壕も保存でき、子供達にも見学できるようになれば、よい社会勉強になるんじゃないかと思ひました。余談ですが、壕内に鍾乳石や石灰段丘など自然の造作物や、白い植物にも目を見はりました。そして、一匹の蟹がチヨコツと動いている姿に、ほっとしました。

*成人教育委員会の皆様、当日は雨模様となつてしまいましたが、多くの参加者があり、また日曜日という設定の

ためと思いますが、男性の方が多かったことで、地下壕に對する関心が高いことをうかがわせ、今回の企画は大成功であつたと思います。大変御苦労様でした。

寺田先生のお話も大変分かりやすく、また話を聞いてからでなければ、当時の地下壕の役割、近隣に對する影響などは、五〇年近くたった今日では理解することは難しいでしょう。正直なところ内部にはもう少し当時の物が残つてゐるものと思つておりましたが、何もない事で大きな、長さがわかるのかとも思います。日本では半世紀の間、直接戦争にかかわることはありませんでした。世界中のどこかの国で毎日のように戦争が行われてゐます。私達の年代の者は父母達より戦争体験を聞いてはいますが、それを我々が次の世代に語り継ぐことはまず不可能だと思ひます。このようなものが日吉にあるのですから、よい形で保存し

てたくさんの人にみてもらいたいと思います。

お知らせ

川崎市ふれあい館で、次のように「人権尊重学級」が開かれます(無料)。

テーマ：戦争と人権

「四十六年間の忘れ物」

日時：一月二十五日(土)

三月二十八日(土)

午後七時～九時

毎週土曜日 全一〇回

場所：ふれあい館(川崎市川崎区桜本一五十六)

電話：四四二七六

四八〇〇

問い合わせ・申込：右に同じ

定員：十五才以上 二〇名

お願い

一九九〇年度・一九九一年度の会費未納の方は、至急納入して下さい。

紀綱集木公俊日記

◆新年おめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

◆保存の会も会員が五百名近くに達し、地下壕への関心も大きく広がってきました。

◆会報の発行や郵送の仕事が大変になり、嬉しい悲鳴をあげています。

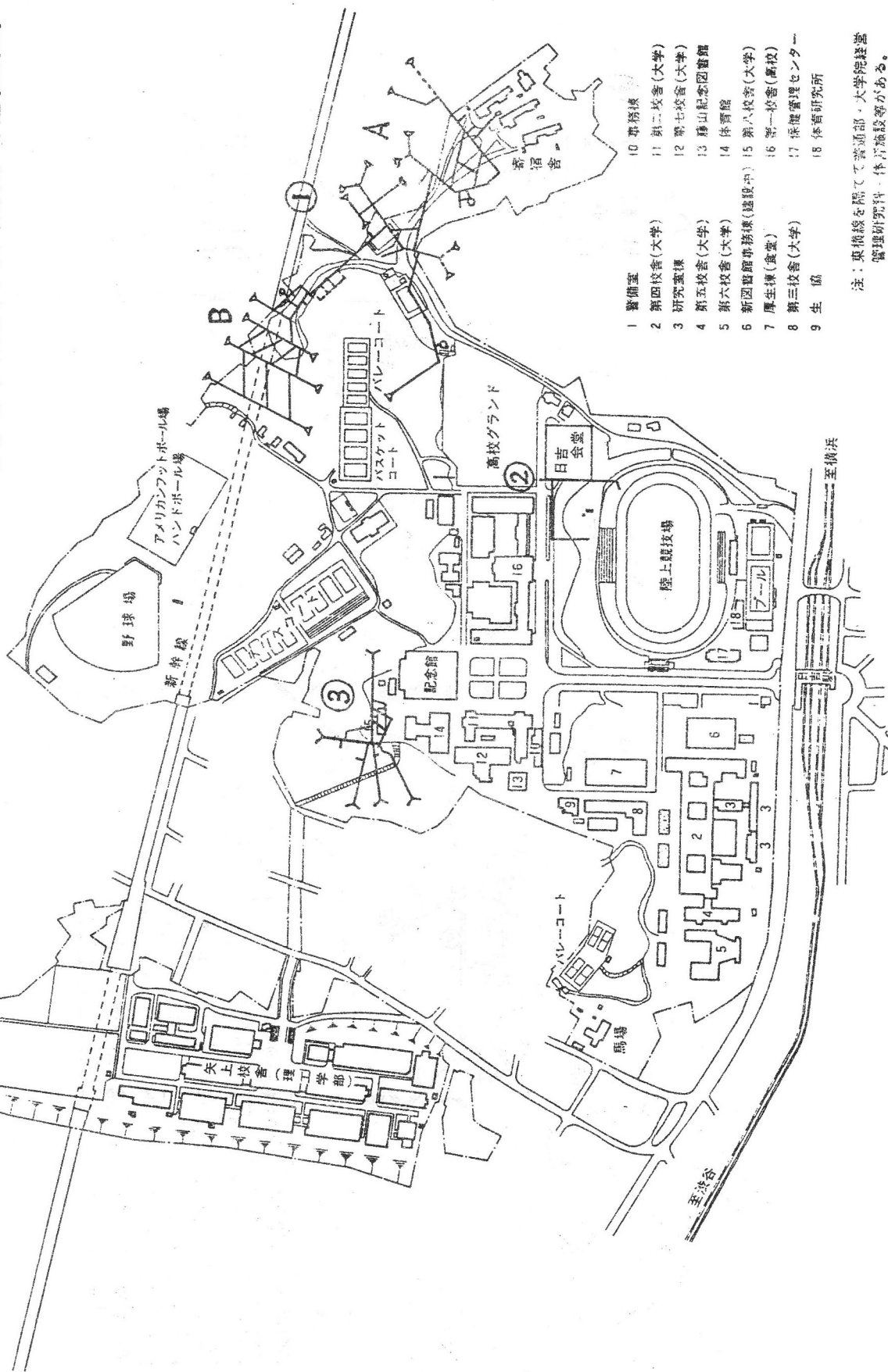
◆会費も順調に集まっています。これも会員の皆様の御支援の賜と感謝しております。

◆宮沢首相が訪韓し大戦中の従軍慰安婦等の問題で謝罪し、歴史を正しく伝えると言明しました。

地下壕の保存の必要性が益々強く感じられます。

◆今年こそは、保存運動が大きく前進し、何とか保存の目鼻をつけたいものと思ひます。

慶應義塾日吉校舎 配置図



注：東横線を隔てて普通部・大学院経営管理研究科・体育施設等がある。

